令和３年１月６日

１月 釜小だより

横浜市立釜利谷小学校
釜小Ｗｅｂ　http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamariya/

新　年　を　迎　え　て

校　長　　菊池　幸博

丑

令和３年が幕を開けました、旧年中は保護者の皆様、地域の方々には多くのご理解とご協力を賜りましたこと、心から御礼申し上げますとともに、本年につきましても変わらぬご厚誼をお願いいたします。

昨年のこの時期、よもや世の中がこのような状況になっていることを、一体どれだけの人が予想できたでしょうか。私自身、令和２年度が新型コロナ感染症に席巻され、４月５月と２か月もの期間、臨時休業をせざるを得ないということは、まったくもって予想することはできませんでした。予測不能な事態は、学校現場に限らず、全世界的な規模で、社会のあらゆる分野で起きていることです。

こうした世情を反映したものの一つに「今年の漢字」があります。昨年末に発表された令和２年を代表する漢字は「密」でした。3 密を避ける、密閉・密集・密接、ソーシャルディスタンスなどの言葉が一般的に使われるようになりました。どちらかというと「密」にならないようにという意味合いで使われることが多かったと感じています。身体的な距離に関しては確かに密になることは避けなければならないと思いますが、こんな時世だからこそ、気持ちや心は、どうか「密」でいたい、「密」であってほしいと願っています。

「コロナいじめ」などという言葉がちらほらと聞こえてくるのですが、誰一人として自分から新型コロナウィルスに感染したいと願う者などいないはずです。憎むべきは、闘うべきは、病気であって、人ではないはずです。以前に、校舎の窓に込めたメッセージでも掲示しましたが、コロナは避ける、人は避けない。釜利谷小学校の子どもたちには、３密は避けるけれど、周りの人たちとの心の距離は、常に密であってほしいと願っています。

年が明け２０２１年、今年は丑年（うしどし）です。丑年の丑と動物の牛とは本来は意味の上での関係はあまり特になく、丑の文字を覚えやすくするために動物の牛と関連付けたといわれています。この丑という文字の成り立ちは手で物をつかむときの曲がりを現した象形文字だということです。また中国では植物がその種の中で、伸びきっていない状態を表したものともいわれています。調べていく中で私の目を引いたのは、母体の中で嬰児が手を握りしめていること、という語源でした。出生後にはどんな事態が待ち受けているかわからないけれども、今まさに生まれ出る前の覚悟を握りしめているかのように、子どもたちはこの世に生を受けます。

この先、何が起こるか予測不能ですが、しっかりと行き先を見つめ、周りの方々と(心の)手と手を握り、気持ちの面では密になりながら、学校を運営していきますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。